



に し し ょ う

西小だより

ホームページはこちら→



「強く 正しく 健やかに」 令和4年 9月21日(水) 第8号 校長 都外川 潔

台風14号が遠ざかり、涼しい秋の空気がやってきました。運動会の練習をしている子どもたちにとっても、ありがたいことです。当日は、一生懸命にがんばる姿に、応援よろしくお願いします。また、昨日の朝は、強い風で落ちたくすのきの葉や小枝を、子どもたちが拾ってくれました。拾ってくれたみなさん、ありがとうございました。

授業中の挙手・発表について

私たち教師は、授業中に、子どもたちに質問や発問をして、挙手・発表を求めることがあります。その目的には、次のようなものがあります。



- ・児童がどれくらい分かっているかを教師が確かめるため
- ・児童が思考して、自分の考えをもてるようにするため
- ・児童が他の児童の考えを知ること、自分の考えをより深められるようにするため など

このような目的があることから、教師からの質問や発問がない授業というのは、ほぼないのではないかと思います。授業参観に来られたときには、お子さんの様子を見られて「うちの子は手を挙げて発表するかしら…」と、ときどきされたこともあるのではないのでしょうか。

実は私が小学校1年生のとき、こんなことがありました。その日は授業参観で、珍しく父親が参観に来ていました。私はうれしくて、先生の発問に対して、はりきって手を挙げました。指名してほしかったのでしょうか、頭の横を机の上にのせて思いっきり手を伸ばしたことを覚えています。その日の夜、私は父親に呼ばれました。「きっとほめられる」と思っていたのですが、「手を挙げる姿勢が悪い！」と厳しくしかられました…。ふざけていたと思われたのでしょうか、いやふざけていたのかもです。

また、こんなこともありました。国語の時間、先生が「鳥の子どものことを何というでしょう。」と発問されました。私ははりきって手を挙げ、「幼鳥です。」と答えました。その頃、私は図鑑が好きでよく読んでいたので、書いてあるとおりに覚えていたのです。ところが、周りの友達は私が「幼虫」と言ったと勘違いして大笑いです。先生が予想されていた答えは、「ひな」だったのだと思います。私はとてもくやしくて、「もう手は挙げん」と思ったことを覚えています。

子どもたちは、授業中に発表することについて「間違ったらどうしよう」という気持ちがあることは、私も体験したのでよくわかります。そこで、私は先生方に次のようなお願いをしています。

- ・失敗を責めたり笑ったりしない、安心できる雰囲気をつくりましょう。
- ・発問の後すぐに児童に挙手を求めるのではなく、考える時間を確保しましょう。
- ・正解でもそうでなくても、考えを伝えようとしている意欲をほめましょう。
- ・子どもによって得意な表現の仕方は様々です。書いていることからよさを見つけましょう。